厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業) 分担研究報告書

睡眠物質のヒト睡眠・覚醒リズムに与える影響に関する研究

分担研究者 亀井雄一 国立精神・神経センター国府台病院精神科

研究協力者 早川達郎、吉田弘和、岩垂喜貴 国立精神・神経センター国府台病院精神科

研究要旨

睡眠物質の一つであるメラトニンは、概日リズム睡眠障害に有効であるとする報告がなされているが、作用機序については結論が出ていない。そこで、メラトニンのヒト睡眠・覚醒リズムに与える影響について、masking effect の極力少ない方法を用いて、脳波解析を行った。その結果、急性効果としての催眠効果と、2日目以降の生物リズムを前進させる作用があることが明らかになった。ただしこれらの作用は、メラトニンを投与する時刻依存性があり、臨床応用するには、投与のタイミングが重要であると考えられた。

A. 研究目的

概日リズム睡眠障害では、生物リズムが 24 時間のリズムに同調でさなり、その結果睡眠・覚醒リズムがずれてしまう。この症候群対する時間生物学的治療法として、がずれてりまう。高照度光療法は生物リズムの位相を変化させることによって、24時間の昼夜リズムに同調させるよりできる。睡眠物質の一つであるメラトニン投与も概日リズム睡眠できる。その有効であると報告されている。その

作用機序としては、生体リズムの位相を変化させる作用や睡眠促進作用などが推測されているが、一定の結論は出ていない。そこで、メラトニンの概日リズム睡眠障害に対する作用機序を明らかにすることを目的に、メラトニンを投与して生物リズムの指標と脳波解析を同時に行った。

B. 研究方法

対象は健康成人男性8名(20~25歳、平均年齢22.8歳)である。実験に先立ち、1週間前から規則正し

い生活をするように指示し、アクチ ウォッチ (Mini Mitter 社) を用い て連続活動量記録を行い、これを確 かめた。実験1日目は午前11時に 集合し昼食をとらせた後、2001ux の実験室内で安静を保たせた。実験 1 日目の 16 時から実験 4 日目の 21 時までの 77 時間の間、20 分-40 分 の超短時間睡眠覚醒スケジュール法・ を1週間の間隔をあけて2セッショ ン施行した。超短時間型睡眠覚醒ス ケジュール法は、60 分を1サイク ルとし、40 分間は実験室において 座位安静を保たせ、20 分間はシー ルドルーム内で安静臥床させ(nap trial) 脳波記録 (C3-A2, C4-A1, 01-A2) を行うという方法である。 実験2日目の19時と21時に各々偽 薬またはメラトニン 0.5mg をシング ルブラインドにて経口投与した。Nap trial における睡眠段階 2.3.4 およ びレムが出現している時間帯の脳波 C3-A1 誘導において、高速フーリエ 変換によるパワースペクトラム解析 をおこなった (low-pass filter は 0.5Hz、high-pass filter は 200 Hz)。 同時に、1時間毎に唾液メラトニン 濃度を測定した。実験中は直腸温を 連続して2分ごとに測定した。実験 室内は温度 24℃、湿度 60%、照度 10lux 以下に、脳波検査中のシール ドルーム内は照度 1lux 以下に保っ た。実験中は2時間ごとに150kcal の栄養食品と 200cc のカフェインを 含まないノンカロリーの飲み物を与 えた。

本研究は国立精神・神経センター 国府台地区の倫理委員会の承認を得 ており、対象車内は本研究に関して 十分な説明を行い、文書にて同意を 取得した。

C. 研究成果

偽薬投与条件下で得られた3周期 分の delta power, theta power を 分散分析で検討すると、周期(日) による効果はみられず、1日の時刻 による効果のみ認められ、日と時刻 の交互作用もみられなかった。これ は本実験において、睡眠中の delta power, theta power 自体が概日リ ズムを持つことを示すという結果で あった。メラトニン投与条件と偽薬 投与条件を比較検討すると、外因性 メラトニンを投与した時間帯に一致 して、メラトニン投与条件では delta power、theta power とも有 意に低下していた。個々のケースを 検討すると、外因性メラトニンによ る唾液中メラトニンが高濃度の時刻 が、生理的なメラトニン分泌時刻か らずれている例では、その時刻に一 致して delta power, theta power のいずれも高値を示していたのに対 して、外因性メラトニンによる唾液 中メラトニンが高濃度の時刻が、生 理的メラトニン分泌時刻と一致して いる例では、delta power, theta power とも変化は認められなかった。 また、投与2日目には、メラトニン 投与条件では delta power、theta power とも早く出現・減衰するパタ ーンがみられた。

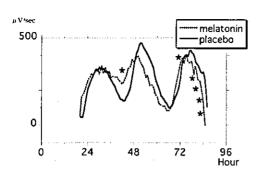
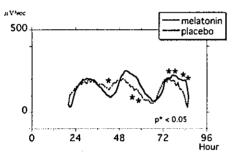


図 1 delta power



2 theta power

D. 考察と結論

今回の結果からは、外因性メラトニン投与の急性効果として、delta power、theta power ともに増加させており、催眠作用があるとともに増加に睡眠内容も良好にさせる作用があるととがあるとから、メラトニンででから、メラトニンでである。DPG (Distal-Proximal Gradient)が相関関係にあることが、末梢からの放熱を増加させ深部体温を低下させる作用が、メラトニンの睡眠に与える作用機序であることが、

メラトニン投与実験からも明らかに なった。ただし、内因性メラトニン が分泌されている時間帯ではこのよ うな結果が得られなかったことから、 睡眠物質であるメラトニン投与の急 性効果は、投与するタイミングが重 要であると考えられた。また、メラ トニン投与は、2日目の delta power、 theta power のリズムを前進させて おり、睡眠・覚醒リズムを前進させ る作用も併せ持つことが示された。 今後、概日リズム睡眠障害にメラト ニン投与を応用していく場合には、 この二つの作用機序に応じて、投与 するタイミングを決定していく必要 があると考えられた。

E. 健康危機情報 なし

F. 研究発表

1. 論文発表

亀井雄一(分担執筆): てんかん 今日の治療と看護、水島裕、黒川清(編)、南江堂、東京、p844-848,2004.

亀井雄一(分担執筆): てんかん 今日の治療と看護、水島裕、黒川清(編)、南江堂、東京、p844-848,2004.

内山 真、田ヶ谷浩邦、亀井雄一(分担執筆):睡眠薬 治療薬イラストレイテッド、山田信博(編)、用土社、東京、p179-182, 2004.

亀井雄一、内山 真(分担執筆): 睡眠障害(不眠) 精神障害の臨床、 上島国利、牛島定信、武田雅俊、丹 羽真一、宮岡 等(編)、日本医師 会、東京、p154-157, 2004.

亀井雄一、内山 真(分担執筆): 高照度光療法 ストレス疾患ナビゲーター、樋口輝彦(監修)、メディカルビュー社、東京、p222-223, 2004.

亀井雄一、内山 真:過眠症、JIM 14,210-215,2004.

Tagaya H, Uchiyama M, Ohida T, Kamei Y, Shibui K, Ozaki A, Tan X, Suzuki H, Aritake S, Li L and Takahashi K: Sleep habits and factors associated with short sleep duration among Japanese hig-school students: A community study. Sleep and Biological Rhytyms 2:57-64, 2004.

亀井雄一:気分障害にみられる睡眠 障害、Prog. Med. 24:77-82, 2004.

亀井雄一: 概日リズム睡眠障害の治療、 Current Therapy. 22:69-72, 2004.

亀井雄一: 不眠の鑑別診断、Suzuken Medical. 7:7-10, 2004.

Sayaka Aritake, Makoto Uchiyama, Hirokuni Tagaya, Hiroyuki Suzuki, Kenichi Kuriyama, Akiko Ozaki, Xin Tan, Kayo Shibui, Yuichi Kamei, Yoshiro Okubo, Kiyohisa Takahashi: Time estimation during nocturnal sleep in human subjects.

Neruoscience Research49:387-393, 2004.

2. 学会発表

亀井雄一、精神疾患関連研究班合同シンポジウム「精神疾患における睡眠障害のマネージメント」: 気分障害に伴う睡眠障害の特徴と治療、第14回厚生労働省精神・神経疾患研究委託費、研究報告会、東京、2004年12月

亀井雄一、シンポジウム「快眠法を 科学する」: 体温調節と快眠、第 29 回睡眠学会、東京、2004 年 7 月

亀井雄一、シンポジウム「薬物の脳 波への影響」: メラトニンが脳波に 与える影響、第 34 回日本臨床神経 生理学会東京、2004 年 11 月

譚 新、鈴木博之、有竹清夏、尾崎 章子、李 嵐、渋井佳代、栗山健一、

亀井雄一、松浦雅人、田ヶ谷浩邦、 内山 真:暗条件下のメラトニン分 泌リズムと睡眠習慣の関係、第 29 回睡眠学会、東京、2004年7月

栗山健一、内山 真、鈴木博之、田 ケ谷浩邦、尾崎章子、渋井佳代、亀 井雄一:時間近くの概日変動、第29 回睡眠学会、東京、2004年7月

亀井雄一、早川達郎、渋井佳代、田 ケ谷浩邦、内山 真:非 24 睡眠覚 醒症候群に対するメラトニン治療の 有効性、第 29 回睡眠学会、東京、2004 年 7 月

早川達郎、亀井雄一、内山 真:長期間にわたって睡眠日誌を活用した 双極性障害の1例、第29回睡眠学 会、東京、2004年7月

有竹清夏、鈴木博之、栗山健一、尾 崎章子、譚 新、李 嵐、渋井佳代、 亀井雄一、田ヶ谷浩邦、松浦雅人、 内山 真:昼間睡眠中の時間認知、 第 29 回睡眠学会、東京、2004 年 7 月

藤井 猛、亀井雄一、宇佐美政英、 齋藤万比古、田ヶ谷浩邦、内山 真: 家庭内暴力、集団不適応を起こした 学童期発症のナルコレプシーの1例、 第29回睡眠学会、東京、2004年7月

田ヶ谷浩邦、内山 真、亀井雄一、 渋井佳代、尾崎章子、譚 新、鈴木 博之、有竹清夏、李 嵐:異なる睡 眠圧による主観的睡眠時間への影響、 第 29 回睡眠学会、東京、2004 年 7 月

- E. 非的財産権の出願・登録状況 なし
- F. 特許取得 なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

刊行物一覧

発表者氏名	論文タイトル名	発表雑誌名	巻号	ページ	出版年
Kaneita Y, Ohida T, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Yagi y, Kaneko A, Tsutsui T, Akashiba T	Excessive daytime sleepiness among Japanese General population	Journal of Epidemiology	15	1-8	2005
Suzuki H, Uchiyama M, Tagaya H, Ozaki A, Kuriyama K, Aritake S, Shibui K, Tan X, Kamei Y, Kuga R	Dreaming During Non-rapid Eye Movement Sleep in the Absence of Prior Rapid Eye Movement Sleep	SLEEP	27	1486-1490	2004
Suzuki K, Ohida T, Kaneita Y, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Yagi Y, Ibuka E, Kaneko A, Tsutsui T, Uchiyama M	Mental health status, shift work, and occupational accidents among hospital nurses in Japan	J Occup Health	46	448-454	2004
Masudomi I, Isse K, Uchiyama M, Watanabe H	Self-help groups reduce mortality risk: a 5-year follow-up study of alcoholics in the Tokyo metropolitan area	Psychiatry Clin Neurosci	58	551-7	2004
Aritake S, Uchiyama M, Tagaya H, Suzuki H, Kuriyama K, Ozaki A, Tan X, Shibui K, Kamei Y, Okubo Y, Takahashi K	nocturnal sleep in human	Neurosci Res	49	387-93	2004
Takano A, Uchiyama M, Kajimura N, Mishima K, Inoue Y, Kamei Y, Kitajima T, Shibui K, Katoh M, Watanabe T, Hashimotodani	A Missense Variation in Human Casein Kinase I Epsilon Gene that Induces Functional Alteration and Shows an Inverse Association with Circadian Rhythm Sleep Disorders	Neuropsychopharmac ology	29	1901-09	2004
Tagaya H, Uchiyama M, Ohida T, Kamei Y, Shibui K, Ozaki A, Tan X, Suzuki H, Aritake S, Li L, Takahashi K	duration among Japanese	Sleep and Biological Rhythms	2	57-64	2004
Kajimura N, Nishikawa M, Uchiyama M, Kato M, Watanabe T, Nakajima T, Hori T, Nakabayashi T, Sekimoto M, Ogawa K, Takano H, Imabayashi E, Hiroki M, Onishi T, Uema T, Takayama Y, Matsuda H, Okawa M, Takahashi K	Deactivation by benzodiazepine of the basal forebrain and amygdala in normal humans during sleep: a placebo-controlled [150]H2O PET study	Am J Psychiatry	161	748-51	2004
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	SLEEP AND BIOLOGICAL RHYTHMS	2	s 5- s 6	2004
Okamura H		Journal of Biological Rhythms	19	388-399	2004

Okamura H	Integration mechanism of molecular rhythm in biological clock	Sleep Biological Rhythms	2	S40-S41	2004
Yamamoto Y, Yagita Y, Okamura H	Role of cyclic mPer2 expression in mammalian cellular clock	Molecular Cellular Biolology	25	1912-1921	2005
Ozaki N	Pharmacogenetics of antipsychotics.	Nagoya J Med Sci	67	1-7	2004
Okada M, Goldman D, Linnoila M, Iwata N, Ozaki N, Northup JK	Comparison of G-Protein Selectivity of Human 5- HT2C and 5-HT1A Receptors.	Ann N Y Acad Sci	1025	570-577	2004
Okada M, Northup JK, Ozaki N, Russell JT, Linnoila M, Goldman D	Modification of Human 5- HT2C Receptor Function by Cys23Ser, an Abundant, Naturally Occurring Amino Acid Substitution.	Mol Psychiatry	9	55-64	2004
Numakawa T, Yagasaki Y, Ishimoto T, Okada T, Suzuki T, Iwata N, Ozaki N, Taguchi T, Tatsumi M, Kamijima K, Straub RE, Weinberger DR, Kunugi H, Hashimoto R		Hum Mol Genet	13	2699-2708	2004
Ozeki T, Koga H, Zettsu T, Yamamoto H, Ozaki N,	Hypersomnia, asterixis and cataplexy in association with orexin A-reduced hypothalamic tumor.	J Neurol	251	1534-1535	2004
Munakata K, Tanaka M, Mori K, Washizuka S,		Genomics	84	1041-1050	2004
M, Yoshida M, Hashimoto R, Kato T, Sakamoto K, Fukunaga T, Inada T, Suzuki T, Iwata N, Ozaki N, Yamada K, Yoshikawa T	the brain-derived	Biol Psychiatry	56	376-378	2004
Kumakiri C, Shimizu E, Sekine Y, Ozaki N, Inada T, Harano M, Komiyama T,	Association between the glutathione S-transferase M1 gene deletion and female methamphetamine abusers.	Am J Med Genet	126B	43-45	2004
Kobayashi H, Ide S, Hasegawa J, Ujike H, Sekine Y, Ozaki N, Inada T, Harano M, Komiyama T,	Study of Association between {alpha}-Synuclein Gene Polymorphism and Methamphetamine Psychosis/Dependence.	Ann N Y Acad Sci	1025	325-334	2004

Iwata N, Inada T, Harano M,	No Association Is Found	Ann N Y Acad Sci	1025	34-38	2004
Komiyama T,	between the Candidate Genes of t-PA/Plasminogen System and Japanese Methamphetamine-Related Disorder: A Collaborative Study by the Japanese Genetics Initiative for Drug Abuse.				
1	No Association With the Neuregulin 1 Haplotype to Japanese Schizophrenia.	Mol Psychiatry	9	126-127	2004
Shimizu E, Sekine Y, Ozaki N, Inada T, Harano M, Iwata N, Komiyama T, Yamada M,	Association study between brain-derived neurotrophic factor gene polymorphisms and methamphetamine abusers in Japan.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet	132B	70-73	2004
Maeda T, Iwashita S, Ozaki N, Harano M, Komiyama T, Yamada M, Sekine Y, Iyo M, Sora I, Ujike H	No Association Found between the Type 1 Sigma Receptor Gene Polymorphisms and Methamphetamine Abuse in the Japanese Population: A Collaborative Study by the Japanese Genetics Initiative for Drug Abuse.	Ann N Y Acad Sci	1025	27-33	2004
Kitajima T, Yamanouchi Y,	Association of AKT1 with schizophrenia confirmed in a Japanese population.	Biol Psychiatry	56	698-700	2004
	Gene polymorphisms of the mu opioid receptor in methamphetamine abusers.	Ann N Y Acad Sci	1025	316-324	2004
Hashimoto R, Yoshida M, Ozaki N, Yamanouchi Y, Iwata N, Suzuki T, Kitajima T, Tatsumi M, Kamijima K, Kunugi H	Association analysis of the G308A promoter polymorphism of the tumor necrosis factor alpha (TNF-α) gene in Japanese patients with schizophrenia.	Journal of Neural Transmission	111	217-222	2004
Harano M, Uchimura N, Abe H, Ishibashi M, Iida N, Yanagimoto K, Tanaka T,		Ann N Y Acad Sci	1025	307-315	2004
Ninomiya H, Tashiro N, Iwata N, Ozaki N, Fukumaki Y	Association study of polymorphisms in the excitatory amino acid transporter 2 gene (SLC1A2) with schizophrenia.	BMC Psychiatry	4	21	2004
Echizenya M, Mishima K, Satoh K, Kusanagi H, Sekine A, Ohkubo T,	Heat Loss, Sleepiness, and Impaired Performance after	Neuropsychopharmac ology	28	1198-1206	2003
Tozawa T, Mishima K, Satoh K, Echizenya M, Shimizu T, Hishikawa Y	Stability of sleep timing against the melatonin secretion rhythm with advancing age: clinical implications	J Clin Endocrinol Metab	88	4689-4695	2003

Ogawa Y, Kanbayashi T, Saito Y, Takahashi Y, Kitajima T, Takahashi K, Hishikawa Y, Shimizu T	Total sleep deprivation elevates blood pressure through arterial baroreflex resetting: a study with microneurographic technique	Sleep	26	986-989	2003
Echizenya M, Mishima K, Satoh K, Kusanagi H, Sekine A, Ohkubo T, Shimizu T, Hishikawa Y	Enhanced heat loss and age-related hypersensitivity to diazepam	J Clin Psychopharmacol	24	639-646	2004
Katoh T, Echizenya M, Maruyama F, Satoh K, Sekine A, Shimizu T, Mishima K	Diazepam-induced sedative effects follow the pattern of enhanced heat loss in human	Sleep and Biological Rhythms	2	220-225	2004
Friess E, Tagaya H, Grethe C, Trachsel L, Holsboer F.		Neuropsychopharmac ology	29(3)	598-604	2004
Kadotani H, Taniguchi M, Takahashi Y, Inoue Y	Genetic approach to sleep- disordered breathing	Sleep and Biological Rhythms	2(Sup ple.1)	S49	2004
Harada M, Taniguchi M, Ohi M, Nakai N, Okura M, Wakamura T, Tamura M, Kadotani H, Chin K		Sleep and Biological Rhythms	2(1)	53-56	2004
Tsuchiya Y, Minami I, Kadotani H, Nishida E	Resetting of peripheral circadian clock by prostaglandin E2	EMBO Report	6(3)	256-61	2005

IV. 資料(主要な刊行文献)

主要な刊行文献

- 1. Suzuki H, Uchiyama M, Tagaya H, Ozaki A, Kuriyama K, Aritake S, Shibui K, Tan X, Kamei Y, Kuga R. Dreaming During Non-rapid Eye Movement Sleep in the Absence of Prior Rapid Eye Movement Sleep. SLEEP 27: 1486-1490, 2004.
- 2. Kajimura N, Nishikawa M, Uchiyama M, Kato M, Watanabe T, Nakajima T, Hori T, Nakabayashi T, Sekimoto M, Ogawa K, Takano H, Imabayashi E, Hiroki M, Onishi T, Uema T, Takayama Y, Matsuda H, Okawa M, Takahashi K. Deactivation by benzodiazepine of the basal forebrain and amygdala in normal humans during sleep: a placebo-controlled [150]H2O PET study. Am J Psychiatry. 161: 748-51, 2004.
- 3. Aritake S, Uchiyama M, Tagaya H, Suzuki H, Kuriyama K, Ozaki A, Tan X, Shibui K, Kamei Y, Okubo Y, Takahashi K: Time estimation during nocturnal sleep in human subjects. Neurosci Res 49: 387-93, 2004.
- 4. Tagaya H, Uchiyama M, Ohida T, Kamei Y, Shibui K, Ozaki A, Tan X, Suzuki H, Aritake S, Li L, Takahashi K: Sleep habits and factors associated with short sleep duration among Japanese high-school students: A community study. Sleep and Biological Rhythms 2: 57-64, 2004.
- 5. Okamura H: Clock genes and cell clocks: Roles, actions and mysteries. J Biol Rhythms, 19, 388-399, 2004.
- 6. Takano A, Uchiyama U, Kajimura N, Mishima K, Inoue Y, Kamei Y, Kitajima T, Shibui K, Katoh M, Watanabe T, Hashimotodani Y, Nakajima T, Ozeki Y, Hori T, Yamada N, Toyoshima R, Ozaki N, Okawa M, Nagai K, Takahashi K, Isojima Y, Yamauchi T, and Ebisawa T. A missense variation in human casein kinase I epsilon gene that induces functional alteration and shows an inverse association with circadian rhythm sleep disorders. Neuropsychopharmacology 29, 1901-1909, 2004.
- 7. Arii J, Kanbayashi T, Tanabe Y, Mishima K, et al. CSF hypocretin-1 (orexin-A) levels in childhood narcolepsy and neurologic disorders. Neurology 63:2440-2, 2004.
- 8. Echizenya M, Mishima K, Satoh K, et al. Enhanced heat loss and age-related hypersensitivity to diazepam. J Clin Psychopharmacol 24:639-46, 2004.

- 9. Kusanagi H, Mishima K, Satoh K, et al. Similar profiles in human period1 gene expression in peripheral mononuclear and polymorphonuclear cells. Neurosci Lett 365:124-7, 2004.
- 10. Mishima K, Tozawa T, Satoh K, et al. The 3111T/C polymorphism of hClock is associated with evening preference and delayed sleep timing in a Japanese population sample. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet 133B:101-4, 2005.
- 11. Tsuchiya Y, Minami I, Kadotani H, Nishida E: Resetting of peripheral circadian clock by prostaglandin E2. EMBO Report 6(3):256-61,2005.
- 12. Harada M, Taniguchi M, Ohi M, Nakai N, Okura M, Wakamura T, Tamura M, Kadotani H, Chin K: Acceptance and short-term tolerance of nasal continuous positive airway pressure therapy in elderly patients with obstructive sleep apnea. Sleep and Biological Rhythms. 2(1):53-56,2004.

Dreaming During Non-rapid Eye Movement Sleep in the Absence of Prior Rapid Eye Movement Sleep

Hiroyuki Suzuki, PhD¹; Makoto Uchiyama, MD, PhD¹; Hirokuni Tagaya, MD, PhD,¹; Akiko Ozaki, RN, RPSGT, PhD¹; Kenichi Kuriyama, MD, PhD,¹; Sayaka Aritake, RMT, RPSGT, MS,¹²; Kayo Shibui, MD, PhD,¹; Xin Tan, MD, PhD,¹; Yuichi Kamei, MD, PhD,³; Ryuichi Kuga, MA⁴

⁴Department of Psychophysiology, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, Kohnodai; ³Department of Life Sciences and Bio-informatics, Graduate School of Allied Health Sciences, Tokyo Medical and Dental University; ³Department of Psychiatry, Kohnodai Hospital, National Center of Neurology and Psychiatry; ⁴College of Humanities and Sciences, Nihon University, Japan

Study Objectives: There is a long-standing controversy surrounding the existence of dream experiences during non-rapid eye movement (NREM) sleep. Previous studies have not answered the question whether this "NREM dream" originates from the NREM sleep mechanism because the subject might simply be recalling experiences from the preceding rapid eye movement (REM) sleep.

Methods: We scheduled 11 healthy men to repeat 20-minute nap trials separated by 40-minute periods of enforced wakefulness across a period of 3 days. At the end of the nap trial, each participant answered questions regarding the formal aspects of his dream experiences during the nap trial, using the structured interviews.

Results: We obtained a total of 172 dream reports after naps containing REM sleep (REM naps) and 563 after naps consisting of only NREM sleep

(NREM naps). Dream reports from NREM naps were less remarkable in quantity, vividness, and emotion than those from REM naps and were obtained more frequently during the morning hours when the occurrences of REM sleep were highest.

Conclusions: These results suggest that the polysomnographic manifestations of REM sleep are not required for dream experiences but that the mechanisms driving REM sleep alter experiences during NREM sleep in the morning. A subcortical activation similar to REM sleep may occur in human NREM sleep during the morning when REM sleep is most likely to occur, resulting in dream experiences during NREM sleep.

Citation: Suzuki H; Uchiyama M; Tagaya H et al. Dreaming during nonrapid eye movement sleep in the absence of prior rapid eye movement sleep. SLEEP 2004;27(8):1486-90.

INTRODUCTION

IN 1953, ASERINSKY AND KLEITMAN DISCOVERED HUMAN RAPID EYE MOVEMENT (REM) SLEEP AND DOCUMENTED THAT DREAM REPORTS OBTAINED MOST FREQUENTLY WHEN SUBJECTS WERE AWAKENED FROM REM SLEEP.1 Thereafter, many scientists conducted studies on dream and REM sleep and found a robust association between electrophysiologic phenomena and subjective experiences during REM sleep.2-7 This well-documented association has led to the conclusion that dream experiences are psychological manifestations generated by the neural system controlling REM sleep.8,9 yielding many innovative findings on the mind-body relationship. In contrast, researchers have also recorded dream reports from subjects upon awakening from non-REM (NREM) sleep; though the association has been shown to be weaker in comparison with that of dream reports upon awakening from REM sleep.16-15

Many human studies, together with some animal studies on REM sleep, have proposed a neural system responsible for human dream experiences. In the early pioneering studies on human REM sleep, researchers focused on the relationship between eye movements and visual experiences during REM sleep and postulated that REM and concomitant activation of the visual system of the brain account for human dream experiences. ²⁴ Recent neurobiologic findings obtained from animal studies have led to the current understanding that phasic signals arising from the pons and impinging upon the cortex during REM sleep might give rise to dream experiences. ^{8,9}

Some studies have focused on dream experiences during NREM sleep; however, no documented findings have yet afforded an understanding of the mechanisms of dreaming during NREM sleep. Rather, researchers have generally made the assumption that dream reports upon awakening from NREM sleep may be a consequence of recalling dream experiences from the preceding REM sleep rather than indicate the existence of NREM-specific dream experiences. However, only a few studies have aimed to determine whether dream reports after NREM sleep are derived from residuals of memory from the preceding REM sleep or actually arise from another type of dream experience during NREM sleep.

This may be due to the methodologic limitations of the conventional intermittent awakening method, in which subjects under all-night polysomnography are awakened several times upon reaching the target sleep stage and asked about their dream experiences. However, investigation of NREM dreaming may require a method in which subjects enter a sleep period only consisting of NREM sleep separated by a sufficient period of wakefulness to exclude the influence of the preceding REM sleep. These prerequisites, however, have not been satisfied in most previous studies except for a study that examined dream experiences during a short and discrete sleep period.¹⁸

In the study reported here, we used a repeated-nap trial, in which 20-minute sleep periods separated by 40 minutes of enforced wakefulness were repeated for 78 hours to allow the

Disclosure Statement

This is not an industry supported study. Drs. Suzuki, Uchiyama, Tagaya, Ozaki, Kuriyama, Aritake, Shibui, Tan, Kamei, and Kuga have indicated no financial conflicts of interest.

Submitted for publication February 2004 Accepted for publication July 2004

Address correspondence to: Makoto Uchiyama, MD, PhD, Department of Psychophysiology, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, Kohnodai, Ichikawa, Chiba, 272-0827 Japan; Tel: 81 47 375 4756; Fax: 81 47 375 4771; E-mail: macoto@ncnp-k.go.jp

SLEEP, Vol. 27, No. 8, 2004

1486 Dreaming During NREM Sleep in the Absence of Prior REM Sleep-Suzuki et al.

measurement of various REM-NREM parameters in association with reported dream experiences.

METHODS

Participants

Eleven healthy male volunteers aged 20 to 26 years (mean = 22.4, SD = 2.1) participated in the present study. They did not have any known sleep, physical, or psychiatric disorders or any history of using psychoactive drugs. The study protocol was approved by the Intramural Research Board of the National Center of Neurology and Psychiatry, and each participant gave his informed consent after the nature, purpose, and possible risks of the experiment had been explained in detail.

All the participants were instructed to abstain from alcohol, caffeine, and napping for a week prior to the laboratory experiment. They were asked to keep sleep logs for 2 weeks and to wear wrist activity recorders (Actiwatch-L; Mini-Mitter, Bend, Ore) for the second week. Consistent sleep-diary and activity data were obtained from all the participants.

Study Design

Each participant took part in a 4-day experimental laboratory session. The participants arrived at the laboratory at 11:00 AM and consumed a 700- to 800-kcal lunch at 12:00 PM on day 1. Electrodes for standard polysomnography were attached between 1:00 PM and 3:00 PM; electroencephalogram (C3-A2, C4-A1, O1-A2), electrooculogram (left and right), chin-surface electromyogram, and electrocardiogram electrodes were used. The light level was set at 200 lux from 11:00 AM to 4:00 PM.

The participants entered a repeated nap trial at 4:00 PM on day 1. This involved 20-minute nap trials every 60 minutes, with standard polysomnographic recordings performed as participants lay recumbent on a bed in a dark (< 0.1 lux) sound-attenuated room, and a 40-minute period of enforced wakefulness on a semiupright sofa under conditions of dim light (< 8 lux). During the 40-minute periods, participants were kept awake and monitored closely by experimenters. At the end of the nap trial, each participant was awoken gently. While remaining in a recumbent position, each participant answered questions regarding the formal aspects of his dream experiences during the nap trial, using the structured interview form described below, and thereafter left the bed. This cycle was repeated 78 times until 10:00 PM on day 4 (Figure 1). In the repeated nap trial, saliva samples were taken every 60 minutes during the last 5 minutes of the 40-minute period using saliva collection tubes (Bühlmann Laboratorics AG Schönenbuch, Switzerland). During the repeated nap trial, the room temperature and humidity were controlled at 24.0°C ± 0.5° C and $60\% \pm 5\%$, respectively. Participants consumed a 150keal snack and 200 mL of water every 2 hours.

Measures

Polysomnographic Measures

Polysomnograms obtained during the nap trials were scored in epochs of 30 seconds according to standard criteria. ¹⁹ A nap trial that contained stage REM was defined as a *REM nap*, whereas a nap trial containing no stage REM but NREM stages was defined as a *NREM nap*. Nap trials not containing any sleep stages were

excluded from further analyses. The summed duration of NREM sleep stages (stage 1, 2, 3, and 4) and stage REM in the nap trial were termed NREM duration and REM duration, respectively.

Saliva Melatonin

Saliva samples were immediately refrigerated at -30°C for later analysis of melatonin concentration. Saliva melatonin was measured with a highly specific direct double-antibody radioimmunoassay kit (Saliva Melatonin RIA kit. Bühlmann Laboratories AG).²⁰ The time point where the saliva melatonin level crossed 3.3 pg/mL was defined as the dim-light melatonin onset, as outlined by Campbell and Murphy.²¹ Dim-light melatonin onset was used for determining relative clock time as described below.

Dream Report Questionnaire

A structured questionnaire was developed to investigate the formal aspects of dreaming, such as dream duration and quality. We did not ask the participants about detailed dream content at a given nap trial because this would have influenced dream reports at successive nap trials. The questionnaire contained the following questions:

Q1. "How much did you dream?" (0: none, 1: little, 2: a moderate amount, 3: a lot)

When the reply to Q1 was 0, Q2-4 were not asked. Otherwise, Q1 was followed by Q2-4.

Q2. "How vivid was the dream?" (0: not vivid at all, 1: rather vivid, 2: moderately vivid, 3: very vivid)

Q3. "How pleasant was the dream?" (0: not pleasant at all, 1: rather pleasant, 2: very pleasant)

Q4. "How unpleasant was the dream?" (0: not unpleasant at all, 1: rather unpleasant, 2: very unpleasant)

The participant's responses to Q1 were averaged separately for REM naps and NREM naps (dream duration). Likewise, the participant's mean scores for Q2, Q3, and Q4 (vividness, pleasantness, and unpleasantness) after REM and NREM naps were calculated. Participants were considered to have had a dream experience if their response to Q1 was 2 or 3. Data from 4 nap trials were eliminated because of difficulties with electroencephalogram recordings.

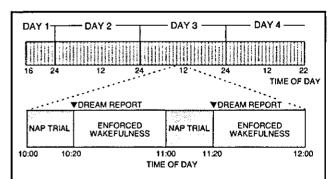


Figure 1—Experimental schedule. Participants followed a 60-minute sleep-wake cycle consisting of a 20-minute nap trial, followed by 40 minutes of enforced wakefulness. Standard polysomnographic recordings were made. This schedule was repeated for 78 hours from 4:00 PM on day 1 to 10:00 PM on day 4. At the end of each nap trial, a dream report was obtained using a structured interview.

Temporal Fluctuation

The data series obtained from the 78-hour experiment was time-locked to the dim-light melatonin onset, to which we designated a relative clock time of 10:00 PM. Thereby, we obtained standardized 72-hour data on all the participants. In this analysis, data obtained from only 9 participants were used, as melatonin measurements from 2 participants were not available because of lack of saliva samples.

Statistical Analyses

Paired *t* tests were performed to compare REM naps and NREM naps on measures of dream duration, vividness, pleasantness, and unpleasantness. For correlation analysis, we calculated Spearman correlation coefficients.

For analysis of temporal fluctuation, we used 72-hour data on REM duration, NREM duration, and dream duration. These were evaluated using 2-way repeated-measure analysis of variance (day and time of day) with a Huynh-Feldt epsilon correction. When a day effect was not observed, the 72-hour data was averaged into 2-hour bins in order to observe the 24-hour fluctuation of these measurements. For all the statistical analyses, the level of significance was set at P < .05. Statistical analyses were performed using StatView v5.0 (SAS Institute Inc., Cary. NC) and Super ANOVA (Abacus Concepts. Inc., Berkeley, CA).

RESULTS

Overview

Administering the structured questionnaire just after each 20-minute nap trial, we obtained a total of 854 dream reports from 11 participants. We excluded those reports obtained after nap trials without any sleep stages (n = 119); all the 30-second epochs were scored as stage wake. Finally, we had a total of 172 dream reports after REM naps and 563 after NREM naps.

Dream Reports from REM and NREM Naps

First, we compared the formal aspects of dream experiences between the REM naps and the NREM naps. Dream experiences were reported for 51.2% of the REM naps and 17.9% of the NREM naps. Dream experiences were more frequently found in the REM naps compared with the NREM naps (χ^2 (1) = 76.13, P < .0001). It was noted that dream experiences did occur during naps consisting of NREM sleep only. When dream experiences were averaged across participants, dream experiences were also more frequent in the REM naps than in the NREM naps (REM: 47.7%, NREM: 18.5%, df = 10, t = -4.58, P = .0010).

Dream report scores (range)	NREM NAP	REM NAP	P value
Dream duration (0-3)	0.47 ± 0.46	1.22 ± 0.76	.0003
Vividness (0-3)	0.46 ± 0.46	1.41 ± 0.93	.0003
Pleasantness (0-2)	0.41 ± 0.40	0.94 ± 0.47	.0057
Unpleasantness (0-2)	0.12 ± 0.22	0.41 ± 0.46	.0670

Subjective dream duration during the REM naps was significantly higher than that during the NREM naps (df = 10, t = -5.41, P = .0003) (Table 1). Dream experiences during the REM naps were more vivid and more pleasant than those during the NREM naps (df = 10, t = -3.73, P = .0047; and df = 8, t = -3.74, P = .0057, respectively). The level of dream unpleasantness during the REM naps was higher than that during the NREM naps, but this difference was not significant (df = 8, t = -2.118, P = .067). Dream experiences during NREM sleep seemed to be less

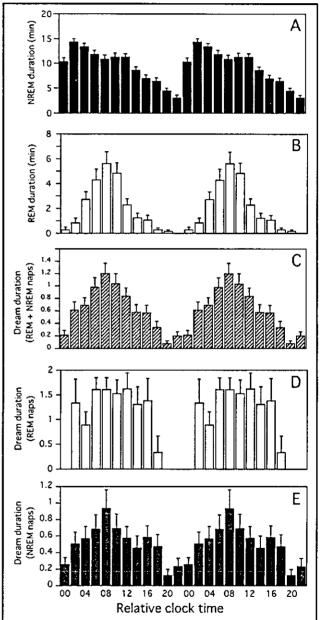


Figure 2—Temporal fluctuations in sleep duration and dream duration. All data are depicted in double-plot style and time-locked to the onset of melatonin release at a relative clock time of 10:00 PM. The peak of rapid eye movement (REM) duration (B) follows that of non-REM (NREM) duration (A) and coincides with that of the dream duration of REM + NREM naps (C). The dream duration of REM naps (D) shows no clear peak, whereas that of NREM naps (E) has a clear peak that coincides with the peak of REM duration but not with NREM duration.

remarkable in quantity, vividness, and emotion than those during REM sleep.

Temporal Fluctuations

Since it has long been recognized that REM sleep occurrence shows temporal characteristics across the day, ²² we then investigated the temporal fluctuations in NREM and REM duration and dream quantities across 2 days (72 hours). Two-way repeated analyses of variance (day and time of day) revealed a significant time-of-day effect on these 3 measures (NREM: F = 8.64, P < .0001, REM: F = 3.92, P = .0055, dream duration: F = 2.75, P = .025) but no day effect nor interaction, such that the 24-hour fluctuation curves did not differ in shape across the 3 days. We then averaged the data across the 72-hour period to obtain 24-hour fluctuation curves.

NREM duration increased sharply from 12:00 AM to 2:00 AM, where a clear peak on the fluctuation curve was evident (Figure 2, A). Thereafter, NREM duration showed a gradual decrease towards the late evening hours with a small peak at 12:00 PM. NREM duration was shortest during the late evening hours (10:00 PM). In contrast, REM duration gradually increased in the midnight and morning hours, showing a maximum at 8:00 AM and a gradual decrease thereafter (Figure 2, B). Dream duration of REM plus NREM naps (the mean value averaged across all REM and NREM reports) increased in the midnight and morning hours and reached a peak at 8:00 AM, followed by a gradual decrease towards the late evening hours (Figure 2. C). The peak in dream duration of REM plus NREM naps coincided with that of REM duration but not with that of NREM duration, which appeared 6 hours earlier. The fluctuation curve of dream duration of REM plus NREM naps appeared similar to that of REM duration in shape, but its distribution was wider.

Next, we constructed figures of the temporal fluctuations in dream duration with respect to the REM and NREM naps, separately. The dream duration of REM naps was high during the period 6:00 AM to 12:00 PM and showed no clear peak (Figure 2, D). In contrast, there was a clear peak at 8:00 AM with the dream duration of NREM naps (Figure 2, E). Surprisingly, this peak coincided with the peak in REM duration but not with that of NREM duration. Correlation analysis between REM duration and the dream duration of NREM naps revealed that REM duration explained a remarkable 75% of the temporal fluctuation of the dream duration of NREM naps $(r = .87, n = 11, P < .0001, r^2 = .75)$.

DISCUSSION

In the present study, we conducted 20-minute nap trials every hour for 78 hours (repeated nap trial), calculated sleep indexes during the nap trials, and obtained dream reports at the end of each nap trial. Using the repeated nap trial, we compared the quantity and quality of dream experiences between REM sleep and NREM sleep and investigated the temporal fluctuations in dream duration.

Use of the repeated nap trial allowed us to determine that dreams reported at the end of a given nap trial were experienced exclusively during the period of that nap trial. In contrast, use of the conventional study methods—in which investigators typically monitor an all-night polysomnogram and wake subjects at tar-

geted sleep stages—fail to determine when reported dreams were actually experienced. We found that the quantity, vividness, and emotional changes in dreams occurring during the REM naps were more marked than those experienced during the NREM naps and that dream experiences also occurred more frequently in REM naps than in NREM naps, the figures being comparable to those of previous studies conducted using the conventional paradigm.¹⁷

It was noted that 17.9% of the NREM naps were associated with dream experiences, suggesting that participants did experience dreams during nap trials consisting of NREM sleep only. Researchers conducting studies using the conventional paradigm have postulated that such NREM dreams do occur. However, no study has yet confirmed in which sleep stage dreams reported by subjects actually occurred, except for a study by Takeuchi et al. 18 in which experiences during short naps (about 10 minutes) were examined. Their results-that experiences during NREM sleep were strongly influenced by the duration of wakefulness contaminated in the nap-may suggest that 10 minutes are not enough to assess experiences during NREM sleep accurately. The fact that human dream experiences can occur during a sleep period without REM was first properly confirmed systematically in the present study, due to the advantage of using a 20-minute repeated nap trial.

Temporal Fluctuations of Dreaming

Dream duration showed an apparent peak in the morning hours, coinciding with peaks in REM duration but not NREM duration. It seems that humans are most likely to experience dreams in certain morning hours of the day.

When a differential analysis was undertaken on dream duration in the REM naps and NREM naps, the NREM curve showed a clear peak in the morning hours, whereas no clear peak was observed in the curve representing the REM naps. The present finding that dream duration in the NREM naps fluctuated across the day in parallel with REM duration suggests that human dream experiences in NREM sleep are strongly influenced by the REM sleep-generating mechanism. Prior animal studies on REM sleep and pontogeniculooccipital activity may provide an explanation for this assumption. In a study by Callaway et al, pontogeniculooccipital activity, which is generated in the brain stem and characterizes animal REM sleep, was observed to also occur in NREM sleep preceding the REM sleep period, even when the cortical electroencephalogram displayed characteristics of NREM patterns such as slow waves.²³ Pontogeniculooccipital activity observed in animal REM sleep is considered to be the most robust factor activating the visual cortexes and generating dream experiences.9 Similar activation of the visual cortexes may occur in human NREM sleep, especially during the morning hours when REM sleep is most likely to occur, resulting in dream experiences during NREM sleep.

There is a long-standing controversy surrounding the existence of dream experiences during NREM sleep. Some researchers have assumed that dreams recalled upon awakening from NREM sleep are a consequence of the mnemonic effects of prior REM sleep. 7.16 Others have postulated that NREM dreams are different from REM dreams, possibly because the loci of REM and NREM sleep generation are exclusively independent. 24.26 Our results appear to support both early suggestions that NREM dreaming

may be due to activation of REM-related processes during NREM-REM transition periods^{16,27} and the more recent suggestion that REM sleep processes can operate covertly to produce NREM dreaming at any time.¹⁷ The results obtained from the repeated nap trial reported here provide understandings of the relationship between dream experiences and NREM sleep. The remarkable correlation we observed between REM duration and NREM dream duration suggests that increases in REM sleep propensity may lead to increased dream production even during NREM sleep.

ACKNOWLEDGEMENTS

This study was supported by the Health Science Grant (15130301) from the Ministry of Health, Labor and Welfare, a Special Coordination Funds from the Ministry of Education. Culture, Sports, Science and Technology.

REFERENCES

- Aserinsky E, Kleitman N. Regularly occurring periods of eye motility, and concomitant phenomena, during sleep. Science 1953;118:273-4
- Dement W, Kleitman N. The relation of eye movements during sleep to dream activity. An objective method for the study of dreaming. J Exp Psychol 1957;53:339-46.
- Goodenough DR, Shapiro A, Holden M. Steinschriber L. A comparison of "dreamers" and "nondreamers": eye movements, electroencephalograms, and the recall of dreams. J Abnorm Soc Psychol 1959;59:295-302.
- Roffwarg IP, Dement WC, Muzio JN, Fisher C. Dream imagery: relationship to rapid eye movements of sleep. Arch Gen Psychiatry 1962;7:235-58.
- Rechtschaffen A, Verdone P, Wheaton J. Reports of mental activity during sleep. Can Psychiatry Assoc J 1963;8:409-14.
- Hobson JA, Goldfrank F, Snyder F. Respiration and mental activity in sleep. J Psychiatry Res 1965;3:79-90.
- Kales A, Jacobson A, Paulson MJ, Kales JD, Walter RD. Somnambulism: psychophysiological correlates. I. All-night EEG studies. Arch Gen Psychiatry 1966;14:586-94.
- Hobson JA, McCarley RW. The brain as a dream state generator: an activation-synthesis hypothesis of the dream process. Am J Psychiatry 1977:134:1335-48.
- Hobson JA, Pace-Schott EF, Stickgold R. Dreaming and the brain: toward a cognitive neuroscience of conscious states. Behav Brain Sci 2000;23:793-842.
- Foulkes D. Dream reports from different stages of sleep. J Abnorm Soc Psychol 1962;65:14-25.
- Foulkes D, Vogel G. Mental activity at sleep onset. J Abnorm Psychol 1965;70:231-43.
- Antrobus J. REM and NREM sleep reports: comparison of word frequencies by cognitive classes. Psychophysiology 1983;20:562-
- Hori T, Hayashi M, Morikawa T. Topographical EEG changes and hypnagogic experience. In R. D. Ogilvic, J. R. Harsh, eds. Sleep Onset-Normal and Abnormal Processes. Washington: American Psychological Association; 1994;237-53.
- Cavallero C, Foulkes D, Hollifield M, Rebecca T. Memory sources of REM and NREM dreams. Sleep 1990;13:449-55.
- Cavallero C, Cicogna P, Natale V, Occhionero M, Zito A. Slow wave sleep dreaming. Sleep 1992;15:562-6.
- McCarley RW. Dreams and the biology of sleep. In: Kryger MH, Roth T. Dement WC. eds. Principles and Practice of Sleep Medicine, 2nd ed. Philadelphia: WB Saunders: 1994: 373-83.
- 17. Nielsen TA. A review of mentation in REM and NREM sleep:

- "covert" REM sleep as a possible reconciliation of two opposing models. Behav Brain Sci 2000;23:851-66.
- Takeuchi T, Miyasita A, Inugami M, Yamamoto Y. Intrinsic dreams are not produced without REM sleep mechanisms: evidence through elicitation of sleep onset REM periods. J Sleep Res 2001;10:43-52.
- Rechtschaffen A, Kales A, A Manual of Standardized Terminology.
 Techniques and Scoring System for Sleep Stages of Human Subjects. Washington: US Government Printing Office; 1968.
- Weber J, Schwander JC, Unger I, Meier D. A direct ultrasensitive RIA for the determination of melatonin in human saliva; comparison with serum levels. Sleep Res 1997;26:757.
- Campbell SS, Murphy PJ. Extraocular circadian phototransduction in humans. Science 1998:279:396-9.
- Czeisler CA, Khalsa SB. The human circadian timing system and sleep-wake regulation. In: Kryger MH, Roth T, Dement WC, eds. Principles and Practice of Sleep Medicine, 3rd ed. Philadelphia: WB Saunders; 2000; 353-75.
- Callaway CW, Lydic R, Baghdoyan HA, Hobson JA. Pontogeniculooccipital waves: spontaneous visual system activity during rapid eye movement sleep. Cell Mol Neurobiol 1987;7:105-49.
- Hobson JA, Stickgold R. Dreaming: a neurocognitive approach. Cons Cogn 1994;3:1-15.
- Seligman ME, Yellen A. What is a dream? Behav Res Therap 1987;25:1-24.
- Casagrande M. Violani C, Bertini M. A psycholinguistic method for analyzing two modalities of thought in dream reports. Dreaming 1996;6:43-55.
- Steriade M. Central core modulation of spontaneous oscillations and sensory transmission in thalamocortical systems. Curr Opin Neurobiol 1993;3:619-25.

Brief Report

Deactivation by Benzodiazepine of the Basal Forebrain and Amygdala in Normal Humans During Sleep: A Placebo-Controlled [150]H₂O PET Study

Naofumi Kajimura, M.D., Ph.D. Masami Nishikawa, M.D., Ph.D. Makoto Uchiyama, M.D., Ph.D. Masaaki Kato, M.D., Ph.D. Tsuyoshi Watanabe, M.D. Toru Nakajima, M.D., Ph.D. Toru Hori, M.D. Tetsuo Nakabayashi, M.D., Ph.D. Masanori Sekimoto, M.D., Ph.D. Kenichi Ogawa, M.D. Harumasa Takano, M.D., Ph.D. Etsuko Imabayashi, M.D. Masahiko Hiroki, M.D. Takashi Onishi, M.D., Ph.D. Takeshi Uema, M.D., Ph.D. Yutaka Takayama, M.D. Hiroshi Matsuda, M.D., Ph.D. Masako Okawa, M.D., Ph.D. Kivohisa Takahashi, M.D., Ph.D.

Objective: The authors' goal was to identify differences in regional brain activity between physiological and benzodiazepine-induced sleep to clarify the brain structures involved in the drug's hypnotic effect.

Method: Using positron emission tomography, they compared regional cerebral blood flow during non-REM sleep in nine volunteers treated with placebo or triazolam, a short-acting benzodiazepine, in a double-blind, crossover design.

Results: Blood flow in the basal forebrain and amygdaloid complexes was lower during non-REM sleep when subjects were given triazolam than when they were given placebo.

Conclusions: The hypnotic effect of the benzodiazepines may be mediated mainly by deactivation of the forebrain control system for wakefulness and also by the anxiolytic effect induced by deactivation of the emotional center.

(Am J Psychiatry 2004; 161:748-751)

Benzodiazepine hypnotics, which have been used widely since the early 1960s, are known to act by agonistic modulation of γ -aminobutyric acid A (GABA_A) receptor subtypes. However, the pharmacological actions mediated by the GABA_A receptor subtypes are still a matter of dispute (1). Therefore, many questions regarding the specific drug actions of the benzodiazepine hypnotics remain to be answered, including the question of which neuroanatomical sites are affected by these drugs.

Positron emission tomography (PET) has been used effectively to visualize the functional neuroanatomy of human sleep, and oxygen-15 water ([15O]H2O) PET, which is well suited to the investigation of sleep states of relatively short duration, has revealed changes in regional cerebral blood flow (rCBF) associated with human non-REM and REM sleep (2). The effects on human sleep of hypnotics acting on the GABAA receptor, including the newly developed nonbenzodiazepines, have also been explored by using PET (3). Unfortunately, previous studies failed to detect specific neuroanatomical sites for the actions of these hypnotics during sleep, possibly because of methodological problems. Therefore, we conducted a double-blind, crossover study of [15O]H2O PET with statistical parametric mapping to compare rCBF during human non-REM sleep after administration of triazolam or placebo.

Method

Fifteen healthy, right-handed, male university students (mean age=21.3 years, SD=1.0, range=20-23) served as study subjects. All gave written informed consent before participating in the study, which was approved by the Intramural Research Board of the National Center of Neurology and Psychiatry.

A maximum of eight intravenous injections of $\rm I^{15}O|H_2O$ were given to each subject during periods of wakefulness and light and deep non-REM sleep under continuous polygraphic monitoring on each experimental night of triazolam or placebo administration. The experiments were separated by a 1-week interval and did not include sleep deprivation. On the night of the experiment, electrodes were attached for polygraphy, and each subject lay face up on a scanner couch, with the head stabilized by an individually molded thermoplastic face mask secured to a plastic headholder. The headholder was fixed on the end of the scanner couch so that the head was protruding fully into the scanner field of view; the head was angled so that each subject's canthomeatal line was parallel to axial planes of the PET scanner.

After two PET scans for wakefulness were obtained in the eyeclosed condition, the subject took a capsule containing either 0.25 mg triazolam or placebo at 10:00 p.m. The lights were turned out at 10:30 p.m., and three scans for light non-REM sleep (stage 2 sleep) and three for deep non-REM sleep (stages 3 and 4 sleep, slow wave sleep) were performed between 11:00 p.m. and 2:00 a.m., when the polygrams showed typical patterns for these sleep stages.

EEGs were recorded from disc electrodes placed at F3, F4, C3, C4, F2, and Cz; A1 plus A2 were used for reference. Monopolar electro-oculograms were recorded from both canthi, and bipolar

electromyograms were recorded from the chin. Details of the polygraphic methodology are the same as in our previous study (4). Sleep stage scoring was carried out according to the standardized sleep manual of Rechtschaffen and Kales (5). Final evaluation of sleep stage scoring for each 90-second period during PET scanning was confirmed later by using C3 recording.

PET data were acquired with the use of a Siemens ECAT EXACT HR 961 scanner in the three-dimensional mode. The camera, having an axial field of view of 150 mm, acquired data simultaneously from 47 consecutive axial planes, which cover the whole brain, including the cerebrum, cerebellum, and brainstem. A spatial resolution of 3.8×3.8×4.7 mm of full width at half maximum was obtained after back-projection and filtering. The reconstructed image was displayed on a 128×128×47-voxel matrix (voxel size=1.732×1.732×3.125 mm). Transmission scanning was carried out before acquisition of the emission data by using a retractable, rotating ⁶⁸Ga/⁶⁸Ge source with three rods.

For each PET scan, an intravenous bolus of 7-mCi [¹⁵O]H₂O was automatically flushed over 15 seconds. Scanning was begun manually 1 second after the initial rise in head counts and was continued for 90 seconds. Arterial blood was sampled automatically throughout the scanning period with a flow-through radioactivity detector. Absolute CBF was quantified by using the autoradiographic technique (6, 7). Details of the PET data analysis are the same as in our previous study (8).

After the appropriate design matrix was specified, estimates of the subject and condition were determined according to a general linear model at each and every voxel. Parameter estimates were compared by using linear contrasts. The contrast of interest in this article was the main effect of the drug during non-REM sleep. These analyses generated statistical parametric maps that were subsequently transformed to the unit normal distribution. The exact level of significance of volumes of difference between conditions was characterized by peak amplitude. Clusters of voxels that had a peak z score greater than 3.09 (threshold p<0.001) were considered to show significant difference. A corrected p value of 0.05 was used as a statistical cluster threshold.

Results

We analyzed the PET data of nine of the 15 subjects, who provided us with complete sets of data during periods of wakefulness and light and deep non-REM sleep on the nights of triazolam and placebo administration. One-way analysis of variance showed no significant difference in the absolute values for global CBF during light or deep non-REM sleep between the placebo and triazolam conditions. Mean absolute global CBF during light non-REM sleep with placebo was 30.4 ml/100 g per minute (SD=5.1), and that with triazolam was 28.8 ml/100 g per minute (SD=4.6) (F=0.51, p=0.49). Mean absolute global CBF during deep non-REM sleep with placebo was 30.6 ml/100 g per minute (SD=3.2), and that with triazolam was 29.4 ml/100 g per minute (SD=3.1) (F=0.64, p=0.44).

When there are no differences in the absolute values for global CBF, comparison of normalized values for regional CBF is often more sensitive for detection of differences than comparison of absolute values and reflects real changes in rCBF (2, 8). Therefore, normalized rCBF values obtained for non-REM sleep with placebo were compared with those obtained with triazolam by analysis of covariance for the nine subjects who provided complete sets of data.

TABLE 1. Brain Regions Showing Significantly Lower Blood Flow in Nine Normal Volunteers During Non-REM Sleep After Triazolam Administration Than After Placebo Administration

	Brodmann's	Coordinatesa			z
Region	Area	x	у	z	Score
Amygdaloid complex					
Left		-32	0	-18	4.68
Right		28	-4	-22	3.47
Caudal orbital basal					
forebrain					
Left		-18	20	-14	4.40
Right		22	10	-18	6.11
Basal forebrain					
Left		-14	0	-10	4.08
Right		10	0	-4	5.86
Anterior cingulate gyrus					
Left	24	-6	-4	36	3.68
Right	32	4	40	6	3.72
Posterior cingulate gyrus					
Left	23	-4	-16	28	3.33
Right	23	4	-26	26	3.65
Left insula	13	-40	-10	-4	3.29
Left prefrontal cortex					
superior frontal gyrus	10	-20	60	-8	4.62
Left precentral gyrus	44	-44	18	8	4.39
Left superior temporal					
gyrus	38	-50	20	-14	4.92
σ,	22	-48	-14	8	4.02
Left superior parietal				_	
gyrus	7	-36	-66	48	3.75

^a Coordinates are defined in the stereotactic space of Talairach and Tournoux (9), relative to the anterior commissure: x is the lateral distance from the midline (positive=right), y is the anteroposterior distance from the anterior commissure (positive=anterior), and z is the rostrocaudal distance from the bicommissural plane (positive=rostral). Significance level is employed at a height threshold of p= 0.001, by reference to unit normal distribution (z=3.09), and at a threshold of corrected p<0.05.

Blood flow was lower in the basal forebrain, amygdaloid complexes, anterior (Brodmann's area 32, 24) and posterior (Brodmann's area 23) cingulate gyri, and the left neocortical regions, including the superior temporal gyrus (Brodmann's area 38, 22), precentral gyrus (Brodmann's area 44), superior frontal gyrus (prefrontal cortex) (Brodmann's area 10), superior parietal gyrus (Brodmann's area 7), and insula (Brodmann's area 13), during non-REM sleep when triazolam was given than when placebo was given (Table 1 and Figure 1). There was no significant increase in rCBF of any region during non-REM sleep under triazolam administration in comparison to that under placebo administration.

Discussion

Using functional neuroanatomical PET, we found that the basal forebrain and the amygdaloid complexes of human subjects showed deactivation during non-REM sleep after triazolam treatment. Wakefulness is known to be maintained by multiple neuronal populations spread out from the metencephalon to the diencephalon, the mesencephalic reticular formation, posterior and posterolateral hypothalamus, and basal forebrain cycle (10). Our data show that triazolam has its main impact on the basal fore-